

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K11127

研究課題名(和文) 子ども虐待予防：妊娠期の父親支援ニーズに立脚した日本版BPPの実証的研究

研究課題名(英文) For the Prevention of Child Abuse: A Study on the Japanese Version of BPP Based on the Support Needs of Fathers during Pregnancy

研究代表者

上田 泉 (Ueda, Izumi)

札幌医科大学・保健医療学部・教授

研究者番号：90431311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、子ども虐待予防を重視した妊娠期における父親支援ニーズを明確にして、日本版Becoming Parents program(BPP)を開発し、効果を検証することである。教室を開催するために、チラシ、教材づくり、スライド作成、台本、ワークシート作成し、実際はon-lineで2回実施した。A県全体で市町村の協力を得て妊娠期の父親を対象に質問紙調査によるニーズの把握調査を実施した。妊婦の父親は、パートナーへの支援に関する具体的な情報を求めている。BPPの「話し手と聞き手の技法と問題解決」の16のエクササイズが基本的なスキルである。BPPのスキルをベースにクラスの企画を立案し実践した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、社会的に問題になっている子育ての孤立化、子ども虐待予防等の家族に関する課題を早期予防するために妊娠期から早期に支援するアプローチを開発したことである。意義は、妊娠期の父親支援ニーズを明確にして、日本版Becoming Parents program(BPP)を実施することにより、家族を形成するベースとなる夫婦関係の構築に貢献することができる。妊娠期という教育が受け入れやすい時期に母親のみならず、父親も支援対象として位置づけたことに意義がある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a Japanese version of the Becoming Parents program (BPP) by identifying father support needs during pregnancy with an emphasis on child abuse prevention, and to test its effectiveness. In order to hold the classes, flyers, teaching materials, slides, scripts, and worksheets were created, and the actual classes were conducted twice on-line. A questionnaire-based needs assessment survey was conducted among expectant fathers in Prefecture. Pregnant fathers wanted specific information on supporting their partners; 16 exercises in BPP's "Speaking and Listening Techniques and Problem Solving" were the basic skills; class planning and practice was based on BPP's skills; the class was designed and practiced by the fathers; the class was designed and practiced by the fathers; the class was designed and practiced by the fathers.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：父親支援 教室 子ども虐待予防 妊娠期

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1 . 研究開始当初の背景

子ども虐待による死亡事例等の検証結果 (社会保障審議会) 第 15 次報告で , 全死亡事例の概要が公表された。主たる加害者は実母が最も多く (48.1%) , 次いで実父が多い (26.9%) 。また , 死亡した児の年齢は 0 歳児が 53.8% と最も多く , 0 歳児の内 , 月齢 0 か月児が 50.0% を占める。全死亡事例の内 , 第 1 子 (きょうだいなし) は 46.0% を占める。子ども虐待予防の観点から , 子ども虐待死を防ぐには子どもが生まれる前 , つまり妊娠期からの介入が重要である。

米国で妊娠期のペアレンティング教育は長い間 , 母親を対象としていたが , 1970 年代頃より父親を組み込むための様々な取り組みがなされた。親への移行期研究の進展から , 全ての親に予防的介入が必要であるとの認識が広まり , 妊娠期からの予防的な親教育や支援が注目されている。米国での親教育のなかで , 米国ワシントンで開発された BPP は , 妊娠期のカップルを対象に , 夫婦のパートナーシップを強化すること , 特に父親への移行に重点をおいた体験型プログラムである。介入効果を 500 組の夫婦を横断的に調査した実証研究として , 米国で最大規模である。BPP (<http://www.becomingparents.com/>)

日本の子育て支援施策は , 子どもが生まれた後の家族 , 特に母親への支援が中心に展開されてきた。子ども虐待予防という視点での周産期の研究では , 母親を対象とした支援プログラムが取り組まれている。カナダで開発された NP (Nobody ' s Perfect) , オーストラリアで開発された Triple P (Positive Parenting Program) 等は国内各地で実践が始まっている。これらは , 対象は母親が中心であり , 子どもが生まれた後の子育てプログラムである。妊娠期に特化した親支援プログラムはいまだ開発されていない。さらに , 子ども虐待予防という視点で全ての父親を対象としたプログラムはない。

2 . 研究の目的

本研究の目的は , 子ども虐待予防を重視した妊娠期における父親支援ニーズを明確にすること , 父親のニーズに立脚した支援プログラム (日本版 BPP) を開発することである。学術的独自性・創造的な点は , 日本で親になるための教育プログラムは確立されていない , 「 妊娠期の親教育プログラム」と位置付けられる , 調査・実践の一体型研究である , 妊娠期に必要なとされる父親のコンピテンシーを父親の視点からとらえようとした , の 3 点である。波及効果は , 本研究によって今まで着目されていなかった妊娠期の父親が実際は何を求めているのかが明らかになり , 多方面から支援プログラムを検討することで今後の妊娠期の親支援対策の開発・普及に大きく寄与することができ , ひいては子ども虐待予防に寄与できる。

3 . 研究の方法

(1) 子ども虐待予防を目指した妊娠期における父親への支援内容を抽出する

妊娠期の父親を対象とした支援ニーズの実態調査

対象 : A 県内の市町の母子保健事業担当者に協力依頼した。対象の市町村は A 県内の全保健所管内の市町で , 協力が得られる市町に依頼。調査対象は , 妊娠期の第 1 子の父親 100 名であった。

方法 : 母子保健事業担当責任者に説明し , 対象者の紹介を依頼。承諾が得られた場合 , 母子健康手帳交付時に父親へのアンケート配布を依頼。デ・タ収集期間は 6 ヶ月間であった。

調査内容は , 妊娠期の父親が求める情報 , 妊娠期に求める支援及び方法を具体的に把握した。無記名自記式質問紙による。回収は郵送法。分析方法は記述統計 , 有意差検定であった。

文献検討及び Becoming Parents Program (<http://becomingparents.com/>) の翻訳と分析
文献は国内外から広く収集する。父親支援に関わる資料 , 子ども虐待予防のための父親支援の骨子内容について抽出した。

対象 : アメリカ・ワシントンで開発された BPP は , グループディスカッションを中心としたセッションで妊娠期に 6 回 , 出産後 2 回の計 27 時間からなる。本プログラム開発をした Dr. Jordan に面接調査をする予定であったがコロナ下のため断念した。

方法 : 文献検討の後 , BPP の書籍を翻訳し , エクササイズの内容を分析した。

の調査と , これまでの申請者の研究結果を統合し , ニーズフレームワークを作成する。

(2) 子ども虐待予防のための妊娠期の父親支援プログラム案を作成する

研究班と多職種で会議を開催する。会議の内容を逐語録にして内容を分析する。これまでの申請者の研究結果と上記の結果を統合する。作成した日本版 BPP 案を対象に提示し , 方法や方略を検討。プログラム内容について意見を聴取 , プログラムを修正し作成した。

(3) 日本版 BPP を実践 , 効果を検証する

対象 : 妊娠期にある父親を対象として上記の協力市町村より募集する。チラシを掲示し , 4 組の夫婦が参加した。プログラムを試行するスタッフは , 研究班であった。

方法 : プログラムを実践する。プログラム 3 回シリーズの教室であった。参加中の行動観察 , 加後 , 質問紙調査を実施した。作成したニーズフレームワークに基づき , 効果が得られたか質的・量的に分析した。

4．研究成果

妊娠期の父親の支援ニーズ調査の結果、父親はさまざまな情報を得たいと考える一方で夫婦関係の構築へのニーズも存在することがわかった。教育の希望としては、対面型の教室、オンライン教室どちらも希望していた。

BPP については翻訳した後に、すべてのエクササイズ内容を熟読し、構成表を作成した。その結果、すべてのエクササイズの基礎であり根本的な考え方を導き出せた。対象者が習得すべき、いつでも活用できるスキルは、話し手と聞き手のテクニックと問題解決のテクニックである。この 2 つのスキルをマスターすることでパートナーとの関係を強化し、健全な生活を送るために必要な交友関係を維持し、一緒に楽しむなどポジティブな面を強化し、疲労やストレなどに対処するための行動を学ぶことができる。そのうえで、参加しやすい時間、回数、内容について組み立て試行プログラム案を作成した。トライアルには 4 組のカップルが参加した。概ね良好な成果を得ることができ、教室開催のための教材も開発できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 青木亜砂子, 上田泉	4. 巻 11
2. 論文標題 子ども虐待予防を重視した妊娠期の父親に必要なコンピテンシー～妊娠後期の第1子の父親へのインタビュー調査から～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 札幌保健科学雑誌	6. 最初と最後の頁 39 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15114/sjhs.11.39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Ueda, Asako Aoki, Michiyo Hirano, Naomi Okada, Kazuko Saeki	4. 巻 6
2. 論文標題 A Review of Issues Concerning the Support for Fathers During Pregnancy: Research Trends in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Studies in Nursing	6. 最初と最後の頁 16 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20849/ijsn.v6i4.938	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 成田陽香, 小倉未久, 本田光, 村川奨, 深川周平, 青木亜砂子, 上田泉	4. 巻 6
2. 論文標題 外国人である父親が構築している子育てのつながり～札幌市に在住する外国人である父親へのインタビュー～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海道公衆衛生学雑誌	6. 最初と最後の頁 119 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉未久, 成田陽香, 本田光, 村川奨, 深川周平, 青木亜砂子, 上田泉	4. 巻 6
2. 論文標題 外国人である父親が日本での子育てを通して獲得している父親役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海道公衆衛生学雑誌	6. 最初と最後の頁 65 - 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深川周平	4. 巻 21
2. 論文標題 妊娠後期の初妊婦が夫に期待する父親役割	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 看護総合科学研究会誌	6. 最初と最後の頁 23 - 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木亜砂子, 上田泉, 深川周平, 村川奨, 本田光	4. 巻 37
2. 論文標題 パートナーが妊娠期にある父親を対象とした支援ニーズの実態調査～パートナーシップを強化する観点から～	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 北海道公衆衛生学雑誌	6. 最初と最後の頁 129 - 135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Ueda, Shuhei Fukagawa, Sho Murakawa, Asako Aoki, Hikaru Honda	4. 巻 8
2. 論文標題 Creating a Class Plan to Strengthen Marital Relationships during Pregnancy in Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 International Journal of Studies in Nursing	6. 最初と最後の頁 15 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20849/ijasn.v8i3.1400	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Ueda, Michiyo Hirano, Kazuko Saeki	4. 巻 22
2. 論文標題 Challenges of supporting fathers in pregnancy health services perceived by public health nurses in Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 看護ケアサイエンス学会	6. 最初と最後の頁 13 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 上田泉, 深川 周平, 村川 奨, 青木 亜砂子, 本田 光
2. 発表標題 妊娠期における父親支援プログラムの開発 - 日本版BPPアウトラインの明確化
3. 学会等名 第28回日本子ども虐待防止学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuhei Fukagawa, Izumi Ueda, Asako Aoki, Sho Murakawa, Hikaru Honda
2. 発表標題 Analyzing the Becoming Parents Program to Examine the Japanese Version of a Father Support Program Focusing on Child Abuse Prevention
3. 学会等名 6th Global Network of Public Health Nursing (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上田泉
2. 発表標題 子ども虐待予防を重視した妊娠期の父親に必要なコンピテンシー
3. 学会等名 第23回日本地域看護学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Asako. Aoki, Izumi Ueda, Shuhei. Fukagawa, Sho. Murakawa, Hikaru. Honda
2. 発表標題 SUPPORT FOR FATHERS DURING PREGNANCY IN JAPAN: A STUDY OF PROGRAM PLANNING TO STRENGTHEN PARTNERSHIPS
3. 学会等名 ICN Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上田泉, 深川周平, 青木亜砂子, 村川奨 本田光
2. 発表標題 日本版BPPの取り組み 母子保健における父親支援について考えよう
3. 学会等名 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 深川周平, 上田泉
2. 発表標題 妊娠期から育児期における夫婦の共感に関する研究の動向
3. 学会等名 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青木 亜砂子 (Aoki Asako) (50807154)	札幌医科大学・保健医療学部・助教 (20101)	
研究分担者	本田 光 (Honda Hikaru) (80581967)	札幌市立大学・看護学部・准教授 (20105)	
研究分担者	村川 奨 (Murakawa Sho) (40882626)	札幌医科大学・保健医療学部・助手 (20101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	深川 周平 (Fukagawa Shuhei) (10908247)	札幌医科大学・保健医療学部・助教 (20101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関